



⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書

WR250X

3D7-28199-JH

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために.....	1-1
あなた自身と同乗者のために	1-1
歩行者と他の車のために	1-4
環境・住民の方との調和のために.....	1-5

各部の名称	2-1
左側面	2-1
右側面	2-2
運転装置と計器類	2-3

各部の取り扱いと操作	3-1
キーの取り扱い	3-1
メインスイッチ	3-1
警告灯と表示灯	3-3
マルチファンクション ディスプレイ	3-4
ハンドルスイッチ	3-9
フューエルタンクキャップ	3-10
燃料	3-11
シート	3-12
ヘルメットホルダー	3-12
書類入れ	3-13
フロントフォークの調整	3-13
フロントフォークのエア抜き	3-15
リヤクッションの調整	3-15
サイドスタンド	3-17
イグニッションサーキットカット オフシステム	3-17

日常点検	4-1
日常点検の実施	4-1

日常点検箇所／点検内容	4-1
-------------------	-----

運転操作	5-1
エンジン始動	5-1
ギヤチェンジのしかた	5-2
ブレーキ	5-2
ならし運転	5-3
駐車	5-3

点検整備	6-1
点検整備の実施	6-1
サービスツール	6-2
カバーの取り外し、取り付け	6-2
エンジンオイル	6-4
エンジンのかかり具合、 異音の点検	6-5
低速、加速の状態の点検	6-5
冷却水	6-6
エアクリーナーエレメントの清掃	6-7
タイヤ	6-9
クラッチ	6-10
ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、および ブレーキのきき具合の点検	6-11
ブレーキランプスイッチ	6-12
ブレーキパッドの点検	6-13
ブレーキ液量の点検	6-13
ブレーキ液の補給	6-14
ドライブチェーン	6-15
ドライブチェーンの給油	6-16
バックミラー	6-17
車体各部の給油脂状態の点検	6-17

アンダーブラケットの 取り付け状態の点検 （ステアリングシステム）	6-18
バッテリー	6-18
ヒューズ交換	6-19
灯火装置および方向指示灯の 点検	6-21
運行において異常が認められた 箇所の点検	6-21

お車の手入れ	7-1
洗車	7-1
アルミフレームの取り扱い	7-2
保管のしかた	7-2
アフターケア用品について	7-3

製品仕様	8-1
------------	-----

ユーザー情報	9-1
二輪車を廃棄する場合は？	9-1
サービスマニュアル（別売）の 紹介	9-2
車両情報	9-2

索引	10-1
----------	------

JAU27281

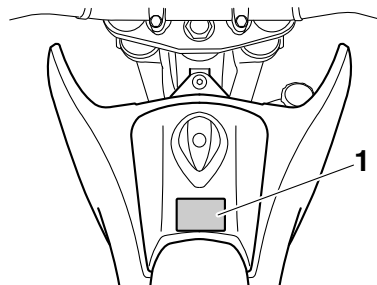
JAU44285

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身と同乗者のために 安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警 告

- ・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ・マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ・ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- ・違法改造はやめましょう。
- ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合っ、て、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
 - ・保護性の高い服で明るく目立つ色のもの

安全運転のために

1

- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
 - ズボンのすそや袖口の広い服
 - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服

- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてくださ

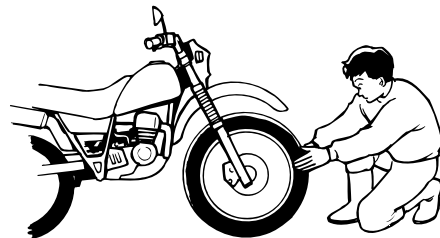
い。

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそ

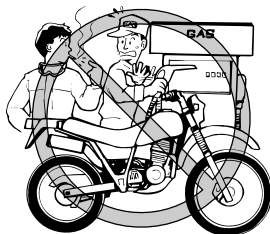
JWA11601

れがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

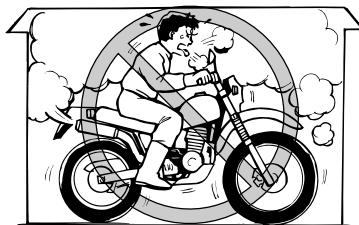


風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

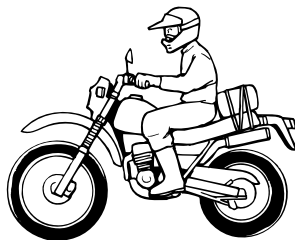
風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行って

ください。



荷物はしっかり固定する

- 荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。



- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。

す。

- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときには、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

安全運転のために

1

また、高速道路（2人乗りが許可されている高速道路）においては、20才以上で、免許取得後3年を経過した運転者でなければ2人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

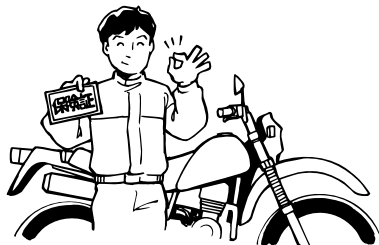
注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

自賠責保険に必ず加入

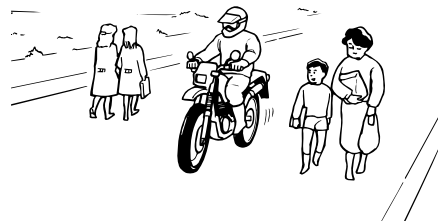
自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

また、保険の期限切れにも注意してください。



歩行者と他の車のために 他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

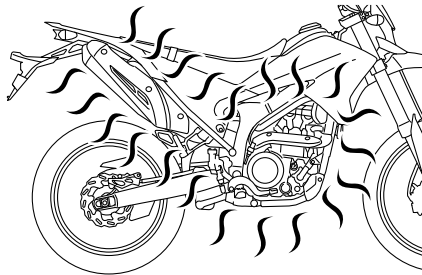
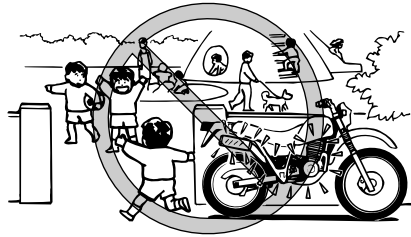
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセッティングされているかを確認してください。

JWA12241

警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。

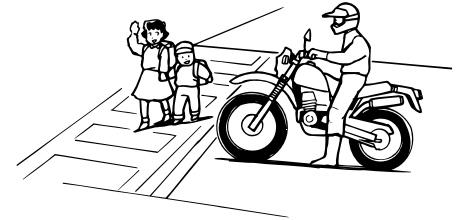


昼間はヘッドライトを下向きに

この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

環境・住民の方との調和のために 住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。

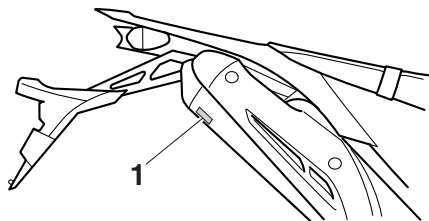


安全運転のために

1

違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには “YAMAHA” マークが刻印されています。



1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの

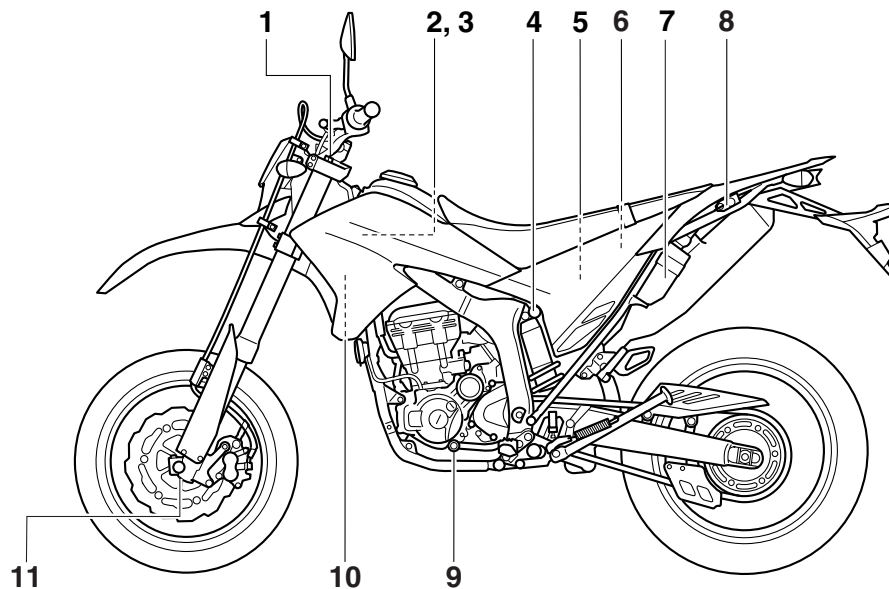
廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。



河原・森林・山野には小鳥や小動物がいます。
走行場所、走行方法には
十分気をつけて走りましょう。

左側面

2

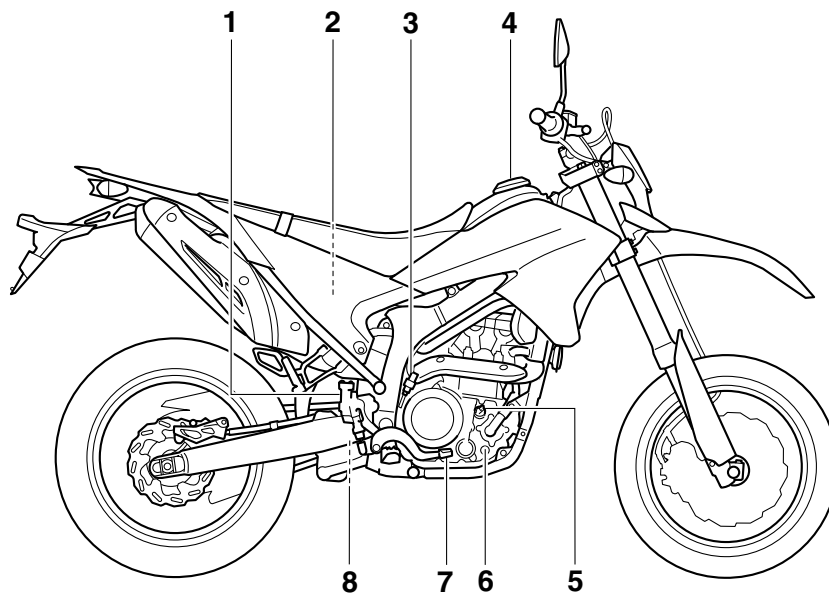


1. フロントフォーク伸側減衰力アジャスター (P3-13)
2. 系統別ヒューズボックス (P6-19)
3. リカバリータンク (P6-6)
4. リヤクッション圧側減衰力アジャスター (P3-15)
5. バッテリー (P6-18)
6. メインヒューズ (P6-19)
7. ツールボックス (P6-2)
8. ヘルメットホルダー (P3-12)
9. シフトペダル (P5-2)

- 10.書類入れ (P3-13)
- 11.フロントフォーク圧側減衰力アジャスター (P3-13)

右側面

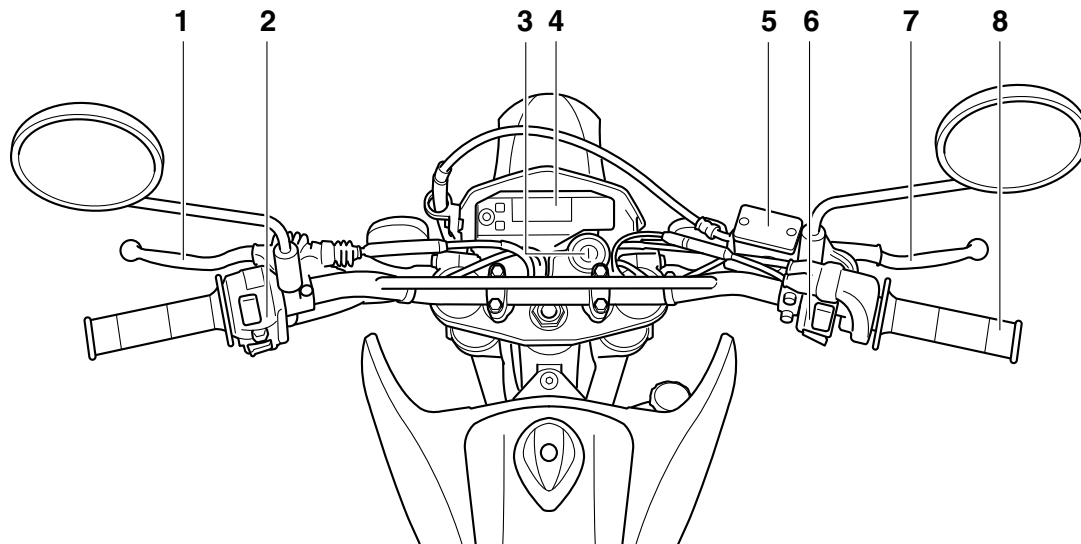
2



1. リヤブレーキマスターシリンダー (P6-13/P6-14)
2. エアクリーナーエレメント (P6-7)
3. リヤブレーキランプスイッチ (P6-12)
4. フューエルタンクキャップ (P3-10)
5. オイル注入口 (P6-4)
6. エンジンオイル点検窓 (P6-4)
7. ブレーキペダル (P6-11)
8. リヤクッション伸側減衰力アジャスター (P3-15)

運転装置と計器類

2



1. クラッチレバー (P6-10)
2. ハンドルスイッチ (左) (P3-9)
3. メインスイッチ/ハンドルロック (P3-1)
4. マルチファンクションディスプレイ (P3-4)
5. フロントブレーキマスターシリンダー (P6-13/P6-14)
6. ハンドルスイッチ (右) (P3-9)
7. ブレーキレバー (P6-11)
8. スロットルグリップ

各部の取り扱いと操作

3

キーの取り扱い

JAU31082

- キーは車の操作や保管をするときに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、十分に注意してください。
- キーは 2 本付属しています。1 本は予備として大切に保管してください。
- 1 本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- キーを 2 本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。



JCA12502

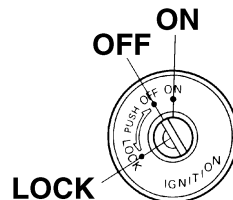
注意

金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当

たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

メインスイッチ

JAU10462



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

警告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドル状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU44291

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプとナンバー灯が点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを OFF にするまで点灯し続けます。
- この車はフューエルポンプを装備しています。メインスイッチを ON にしたとき、またはエンジン始動中にフューエルポンプの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

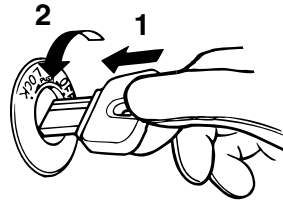
JAU46011

OFF

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。
ハンドルロックのしかた



1. 押す
2. 回す

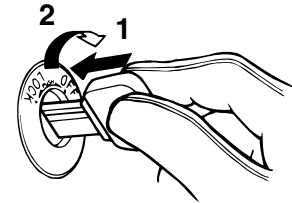
1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

JAU10686

ハンドルロックの解除のしかた



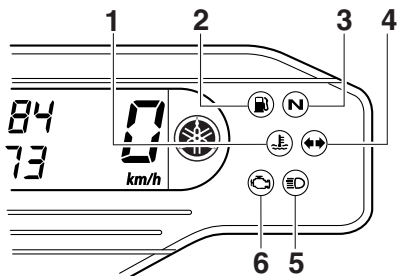
1. 押す
2. 回す

1. メインスイッチにキーを差し込みます。
2. LOCK の位置でキーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

各部の取り扱いと操作

警告灯と表示灯

JAU49398



1. 水温警告灯 “”
2. 燃料残量警告灯 “”
3. ニュートラルランプ “N”
4. 方向指示器表示灯 “”
5. ヘッドライト上向き表示灯 “”
6. エンジン警告灯 “”

方向指示器表示灯 “”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11022

ニュートラルランプ “N”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU11061

ヘッドライト上向き表示灯 “”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU11081

燃料残量警告灯 “”

燃料残量が約 2.1 L 以下になると点灯します。早めに給油してください。

JAU44622

要 点

メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU11447

水温警告灯 “”

エンジン冷却水が規定温度以上になったとき、警告灯が点灯するか、点滅します。このときは、エンジンを止めて冷やしてください。

JCA11851

注 意

エンジンがオーバーヒートしたときは、走行しないでください。

要 点

メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しないときや、点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JAU43024

エンジン警告灯 “”

エンジンの電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯するか、点滅します。ヤマハ販

売店で点検を受けてください。

要 点

- メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- スタータースイッチを押している間、警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。

マルチファンクションディスプレイ

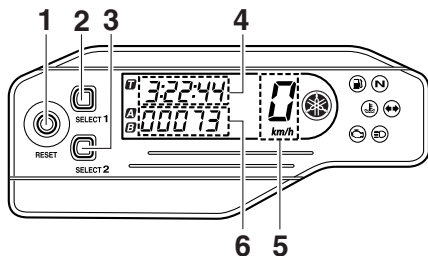
JAU44386

JWA12161

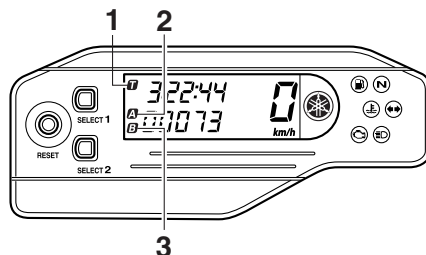


警告

表示の切り替え、時刻調整などの操作は、必ず停車中に行ってください。



1. “RESET” ボタン
2. “SELECT1” ボタン
3. “SELECT2” ボタン
4. 時計/ストップウォッチ
5. スピードメーター
6. オドメーター/トリップメーター/フューエルトリップメーター



1. ストップウォッチ表示 “**D**”
2. トリップメーター A 表示 “**A**”
3. トリップメーター B 表示 “**B**”

要 点

- この車のマルチファンクションディスプレイは、基本モードと計測モードの切り替えができ、それぞれ以下の機能があります。
- 基本モードと計測モードの切り替えのとき、トリップメーター A のみ 0km にリセットされます。

基本モード：

- スピードメーター
車の速度を示します。
- オドメーター
走行した総距離を表示します。最大値 (99999km) を超えると最大値で固定さ

れます。

- トリップメーター 〈A / B〉
リセットしてからの走行距離を積算します。最大値 (999.9km) を超えるとリセットされます。
- フューエルトリップメーター
燃料残量警告灯が点灯してからの走行距離を表示します。ただし、オフロード走行などでフューエルタンク内のガソリン油面が大きく変動するような走行をしている場合、燃料残量警告灯の点灯が遅くなるときがあります。このような走行をしているときは、ガソリンの残量に注意してください。また、計測モードで走行中にフューエルトリップメーター動作状態になったときは、基本モードに切り替え後、“SELECT2” ボタンの操作で表示することができます。

- 時計
- 自己診断機能

計測モード：

- スピードメーター
車の速度を示します。
- トリップメーター A
リセットしてからの走行距離を積算します。最大値 (999.9km) を超えるとリセットされます。

各部の取り扱いと操作

また、計測モードでは積算された走行距離を修正することができます。

- ストップウォッチ
- 自己診断機能

要 点

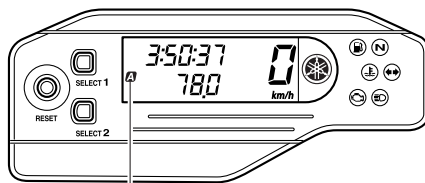
- “SELECT1” ボタン、“SELECT2” ボタンや “RESET” ボタンを使用するときは、メインスイッチを ON にしてください。
- メインスイッチを ON にすると、マルチファンクションディスプレイの全セグメントを表示し、その後、前回メインスイッチを OFF にしたときの表示になります。このとき車は自己診断を行っており、その結果に異常があればマルチファンクションディスプレイに表示します。

基本モード

オドメーター／トリップメーター

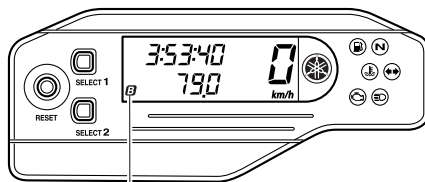
“SELECT2” ボタンを押すごとに、オドメーターとトリップメーターが下記の順で切り替わります。

オドメーター → トリップメーター A → トリップメーター B → オドメーター



1

1. トリップメーター A 表示 “A”



1

1. トリップメーター B 表示 “B”

要 点

トリップメーター A を選ぶと、“A” が表示されます。トリップメーター B を選ぶと、“B” が表示されます。

トリップメーターのリセットは、“SELECT2” ボタンを押してリセッ

トしたいトリップメーターを表示させてから “RESET” ボタンを 1 秒以上押します。

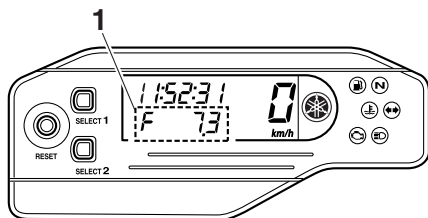
フューエルトリップメーター

フューエルタンクのカソリンの残量が約 2.1 L になると、燃料残量警告灯が点灯し、選択しているトリップ表示にかかわらずフューエルトリップメーターに切り替わって、その時点からの走行距離を表示します。このとき “SELECT2” ボタンを押すと、オドメーターとトリップメーターは下記の順に切り替わります。

フューエルトリップメーター → オドメーター → トリップメーター A → トリップメーター B → フューエルトリップメーター

要 点

フューエルトリップメーターのときは、“F” が表示されます。



1. フューエルトリップメーター

トリップメーターのリセットは、“SELECT2” ボタンを押してリセットしたいトリップメーターを表示させてから“RESET” ボタンを1秒以上押します。フューエルトリップメーターはリセットしなくても、ガソリンを給油後約 5km 走行すると自動的にフューエルトリップメーターに切り替わる前の表示に戻ります。

時刻調整のしかた

要 点

時刻調整で<時>、<分>を合わせるとき、“SELECT1” ボタンを押すと1ずつ数が増えます。“SELECT2” ボタンを押すと1ずつ数が減ります。それぞれ長押しすることで数は早く進みます。

1. “SELECT1” ボタンを2秒以上押しま

- す。
2. <時>の表示が点滅したら、“SELECT1” ボタン、または“SELECT2” ボタンを押して<時>を合わせます。
3. “RESET” ボタンを押すと、<分>の表示が点滅します。
4. “SELECT1” ボタン、または“SELECT2” ボタンを押して<分>を合わせます。
5. “RESET” ボタンを押すと、<秒>の表示が点滅します。
6. “SELECT1” ボタン、または“SELECT2” ボタンを押すと<秒>が00にセットされます。
7. “RESET” ボタンを2秒以上押すと、時刻調整が完了し、時計表示に戻ります。

要 点

30秒以上ボタンの操作がない場合は、時刻調整されている時刻を保持して、通常の時計表示に戻ります。

基本モードと計測モード

要 点

- ストップウォッチ機能での時間の計測は計測モードでのみ可能です。

- 計測モードに切り替えると“**0**”が表示されます。
- 計測モードの表示機能は基本モードとは異なります。

基本モードから計測モードへの切り替え
オドメーターを表示させた状態で、“SELECT1” ボタンと“SELECT2” ボタンを同時に2秒以上押すと、計測モードに切り替わります。

計測モードから基本モードへの切り替え

要 点

計測モードから基本モードへの切り替えは、ストップウォッチ機能で時間の計測をしていない状態でのみ可能です。

1. ストップウォッチ機能で時間の計測をしていないかを確認します。計測していたときは、“SELECT1” ボタンと“SELECT2” ボタンを同時に押して計測を停止します。
2. “SELECT1” ボタンと“SELECT2” ボタンを同時に2秒以上押すと基本モードに切り替わります。

計測モード

要 点

計測モードに切り替えてから、ストップ

各部の取り扱いと操作

ウォッチ機能で時間を計測するには以下の2通りがあります。

- マニュアルスタート
運転者が自分でボタンを押して計測を開始します。
- オートスタート
車が動くと、スピードパルス信号を感知して自動的に計測が開始されます。

マニュアルスタート

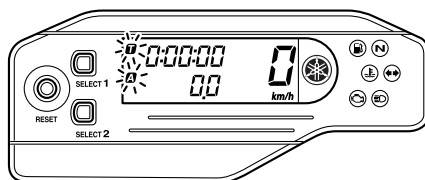
要 点

基本モードから計測モードに切り替えると、ストップウォッチ機能は自動的にマニュアルスタートが選択されます。

1. 計測モードに切り替わっていることを確認します。

要 点

マニュアルスタートで計測の準備が完了すると“**I**”とトリップメーター A を示す“**A**”が点滅します。



2. “RESET” ボタンを押すと計測が開始されます。
3. “SELECT1” ボタンと“SELECT2” ボタンを同時に押すと計測が停止します。

要 点

走行してもストップウォッチ機能で時間を計測しないとき、トリップメーター A も積算を開始しません。

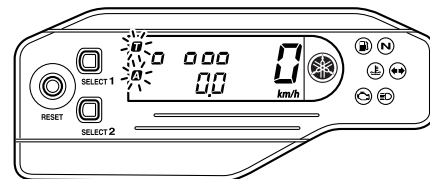
4. “SELECT1” ボタンと“SELECT2” ボタンを同時に押すと再び計測を開始します。

オートスタート

1. 計測モードに切り替わっていることを確認します。
2. “SELECT1” ボタンを2秒以上押しま

要 点

オートスタートで計測の準備が完了すると“**I**”とトリップメーター A を示す“**A**”が点滅します。また、時間の表示部分が左から右に流れるように表示されます。



3. 車が動き出すとスピードパルスを検知して、自動的に計測が開始されます。
4. “SELECT1” ボタンと“SELECT2” ボタンを同時に押すと一旦、計測を停止します。
5. “SELECT1” ボタンと“SELECT2” ボタンを同時に押すと再び、計測を開始します。

要 点

一旦、オートスタートで計測を開始すると、停車しても計測を継続しています。計測を一時停止、再スタートするには、4～5のボタ

ン操作が必要です。

トリップメーター A の補正

“SELECT1” ボタンと“SELECT2” ボタンを使って、トリップメーター A の数値を補正することができます。“SELECT1” ボタンを押すと 0.1 ずつ数が増え、“SELECT2” ボタンを押すと 0.1 ずつ数が減ります。それぞれ長押しすることで数は早く進みます。

要 点

補正はストップウォッチ機能で計測中でも、計測停止した後でも可能です。

計測したデータのリセット

要 点

計測したデータのリセットには以下の2種類があります。

- トリップメーター A のリセット。
- トリップメーター A とストップウォッチ機能で計測した時間のリセット。

トリップメーター A のリセット

1. ストップウォッチ機能で時間を計測していることを確認します。
2. “RESET” ボタンを 2 秒以上押すとトリップメーター A がリセットされます。

トリップメーター A とストップウォッチ機能で計測した時間のリセット

1. ストップウォッチ機能で時間を計測していないことを確認します。
2. “RESET” ボタンを 2 秒以上押すとトリップメーター A とストップウォッチ機能で計測した時間がリセットされます。

要 点

- リセットすると、トリップメーター A とストップウォッチ機能は計測の準備状態に戻ります。
- マニュアルスタートで計測していたときは、マニュアルスタートの準備状態に戻ります。
- オートスタートで計測していたときは、オートスタートの準備状態に戻ります。“SELECT2” ボタンを 2 秒以上押すとマニュアルスタートに切り替えができます。

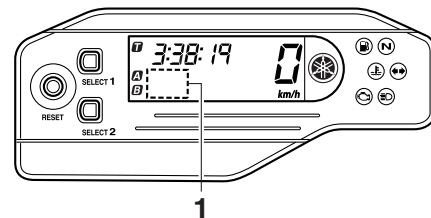
自己診断機能

このモデルには電気回路の自己診断装置が備わっています。

回路のいずれかが故障した場合、マルチファンクションディスプレイのオドメーター表示部にエラーコードが表示されます。

マルチファンクションディスプレイにエ

ラーコードが表示された場合、エラーコードを控え、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。



1. エラーコード表示

JCA13002

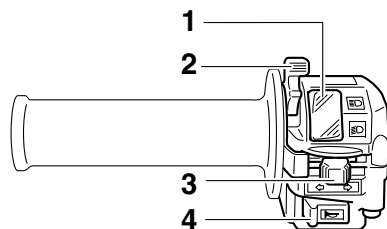
注 意

マルチファンクションディスプレイがエラーコードを表示しているときは、エンジンの損傷を防ぐために、できるだけ早く点検を受けてください。

各部の取り扱いと操作

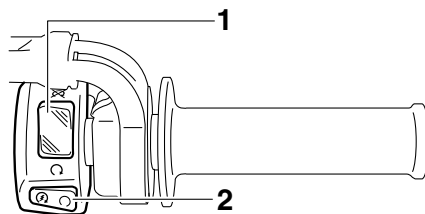
ハンドルスイッチ

<左>



1. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “ $\equiv$ 〇/ $\equiv$ 〇”
2. ハザードスイッチ “ $\triangle$ ”
3. 方向指示器スイッチ “ $\leftarrow$ / $\rightarrow$ ”
4. ホーンスイッチ “ $\hookrightarrow$ ”

<右>



1. エンジンストップスイッチ “ $\bigcirc$ / $\otimes$ ”
2. スタータースイッチ “ $\otimes$ ”

JAU1234H

JAU1240I

ヘッドライト上下切り替えスイッチ

“ $\equiv$ 〇/ $\equiv$ 〇”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

$\equiv$ 〇(上向き): 遠くを照らします。

$\equiv$ 〇(下向き): 近くを照らします。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU1246I

方向指示器スイッチ “ $\leftarrow$ / $\rightarrow$ ”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

$\rightarrow$: 右側の方向指示灯が点滅します。

$\leftarrow$: 左側の方向指示灯が点滅します。

JWA1164I

⚠ 警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のも

のを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU1250I

ホーンスイッチ “ $\hookrightarrow$ ”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU28182

エンジンストップスイッチ “ $\otimes$ / $\bigcirc$ ”

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は “ $\bigcirc$ ” にしておきます。

JWA1210I

⚠ 警告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA1235I

注 意

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中に、エンジンストップスイッチを “ $\bigcirc$ ” $\rightarrow$ “ $\otimes$ ” $\rightarrow$ “ $\bigcirc$ ” にしないでく

ださい。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。また、排出ガス浄化装置の故障の原因となります。

要 点

“” にすると、エンジンは始動できません。

JAU12713

スタータースイッチ “”

このスイッチを押すと、スターターモーターが回転し、エンジンが始動します。

JCA11882

注 意

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。

JAU12766

ハザードスイッチ “”

メインスイッチを ON にした状態で、スイッチを “” にスライドし、ハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU44364

フューエルタンクキャップ

JWA12172

警 告

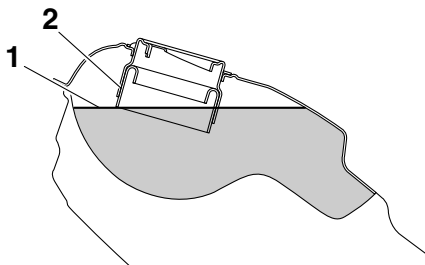
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィルターチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に

各部の取り扱いと操作

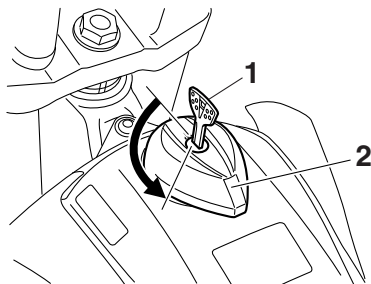
に閉めてください。

3



1. 給油限度
2. フィラーチューブ

フューエルタンクキャップの取り外しかた



1. キー
2. フューエルタンクキャップ

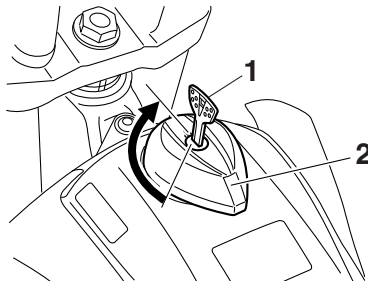
1. キーをロックに差し込み、反時計方向に

回します。

2. フューエルタンクキャップを反時計方向に回し、キャップを取り外します。

フューエルタンクキャップの取り付けかた

1. キーをロックに差し込んだ状態で、フューエルタンクキャップを給油口に挿入し、時計方向に回します。
2. キーを時計方向に回し、キーを抜きます。



1. キー
2. フューエルタンクキャップ

要 点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないで、キーを抜くことはできません。

燃料

JAU31461

JAU28333

指定燃料

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
約 7.6 L

JCA12512

注 意

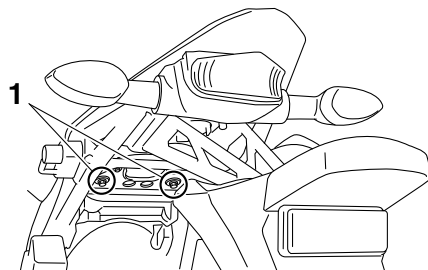
- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

JAU46283

シート

シートの取り外しかた

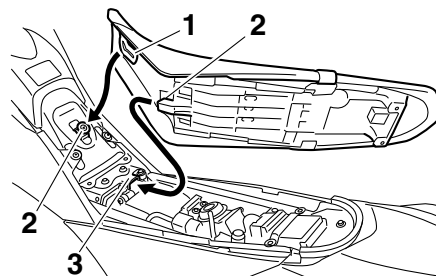
ボルトを外し、シートを後方に引いてから持ち上げて取り外します。



1. ボルト

シートの取り付けかた

1. 図のようにシート前部の溝をフューエルタンク上の突起に合わせ、シートの突起をホルダーに差し込みます。



1. 溝
2. 突起
3. ホルダー

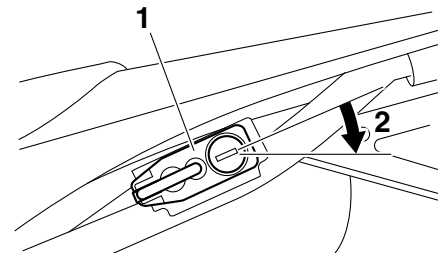
2. シートを元の位置に取り付け、ボルトを締め付けます。

要 点

乗車する前に、シートが正しく取り付けられていることを必ず確認します。

JAU14283

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

⚠ 警告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

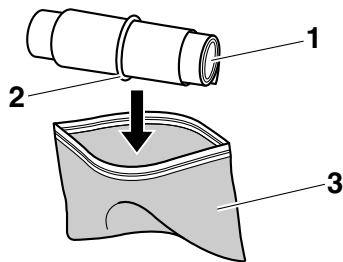
各部の取り扱いと操作

JAU44352

書類入れ

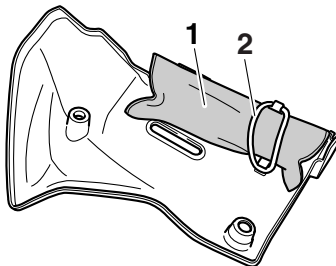
カバーAを取り外すと、裏側にバンドでポーチ（書類入れ）が固定されています。

1. カバー A を取り外します。（カバーの取り外しは 6-2 ページ参照）
2. メンテナンスノート、自賠責保険証を丸めてバンドでとめ、ポーチに入れます。



1. メンテナンスノート、自賠責保険証
2. バンド
3. ポーチ

3. ポーチを図のようにバンドでカバーAに固定します。



1. ポーチ
2. バンド
4. カバー A を取り付けます。

JAU41473

フロントフォークの調整

フロントフォークには、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

JWA11481

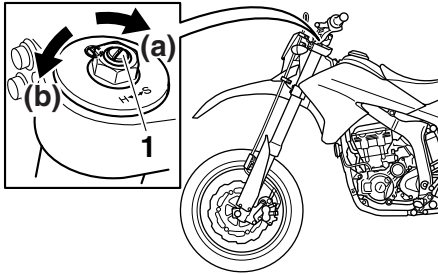
警告

アジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

伸側減衰力

伸側減衰力を強めるには左右のフロントフォークの伸側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱めるには左右のフロントフォークの伸側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。

（アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから (b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。）



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：

最小（ソフト）：

17 段

標準：

10 段

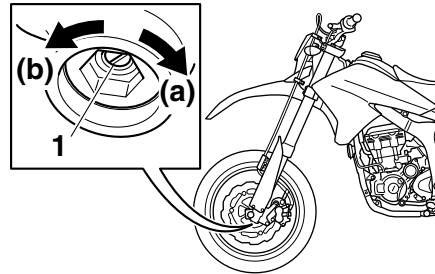
最大（ハード）：

1 段

圧側減衰力

1. ゴムキャップをフロントフォークから取り外します。
2. 圧側減衰力を強めるには左右のフロントフォークの圧側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。圧側減衰力を弱めるには左右のフロントフォークの圧側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。

（アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから (b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。）



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：

最小（ソフト）：

19 段

標準：

10 段

最大（ハード）：

1 段

3. キャップを取り付けます。

JCA11911

注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

要 点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

各部の取り扱いと操作

JAU14794

フロントフォークのエア抜き

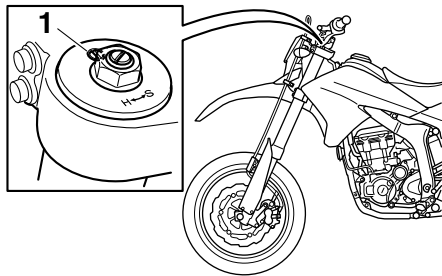
走行により、フロントフォーク内の温度が上がると、フォーク内の空気圧が上昇し、フロントサスペンションは固くなります。このような場合、以下のようにしてフロントフォークのエア抜きを行います。

1. エンジンの下に適当なスタンドを置き、フロントホイールを持ち上げます。

要 点

フロントフォークのエア抜きを行うときは、車両の前部に荷重がかからないようにします。

2. ブリードスクリューを外し、それぞれのフォークからエアを放出させます。



1. ブリードスクリュー

JWA10201

警告

エア抜きは左右のフロントフォークに対して行ってください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

3. ブリードスクリューを取り付けます。

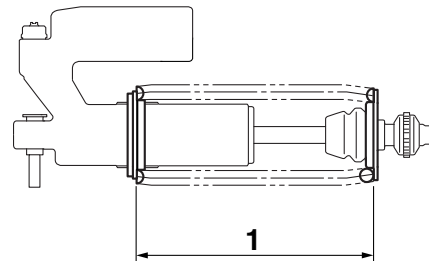
JAU44301

リヤクッションの調整

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

スプリングプリロード

スプリングプリロードのセッティングは、図のセット長 A を測定して決めます。セット長 A を長くすると、スプリングプリロードは小さくなり、サスペンションは軟らかくなります。セット長 A を短くすると、スプリングプリロードは大きくなり、サスペンションは硬くなります。



1. セット長 A

要 点

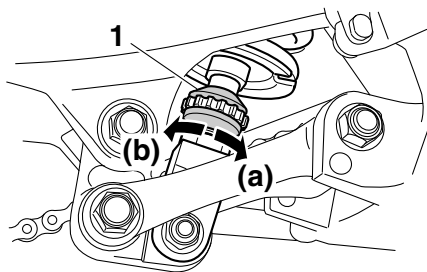
スプリングプリロードの調整はお買い上げ

のヤマハ販売店にご相談ください。

伸側減衰力

伸側減衰力を強め、サスペンションを硬くするには、アジャスターを (a) 方向に回します。
伸側減衰力を弱め、サスペンションを軟らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。

(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから (b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。)



1. 伸側減衰力アジャスター

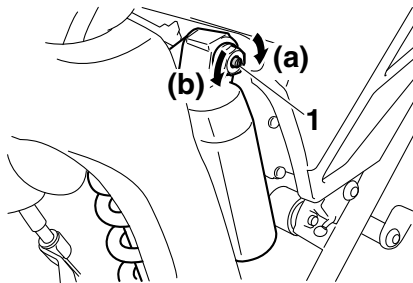
伸側減衰力：

最小 (ソフト)：
25 段
標準：
15 段
最大 (ハード)：
3 段

圧側減衰力

圧側減衰力を強め、サスペンションを硬くするには、アジャスターを (a) 方向に回します。
圧側減衰力を弱め、サスペンションを軟らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。

(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから (b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。)



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：

最小 (ソフト)：
12 段
標準：
9 段
最大 (ハード)：
1 段

要 点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JWA11511

⚠ 警告

リヤクッションユニットは高圧の窒素ガスを含んでいますので下記のことを厳守してください。

- 分解しない。
- 火気の中に投げ込まない。
- 廃棄するには、ガス抜きが必要です。必ずお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の取り扱いと操作

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

3

要 点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。)

JWA10242

警告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない(上がった状態にならない)場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店で修理を依頼してください。

JAU44893

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム(サイドスタンドスイッチ、クラッチスイッチおよびニュートラルスイッチを含む)には次の機能があります。

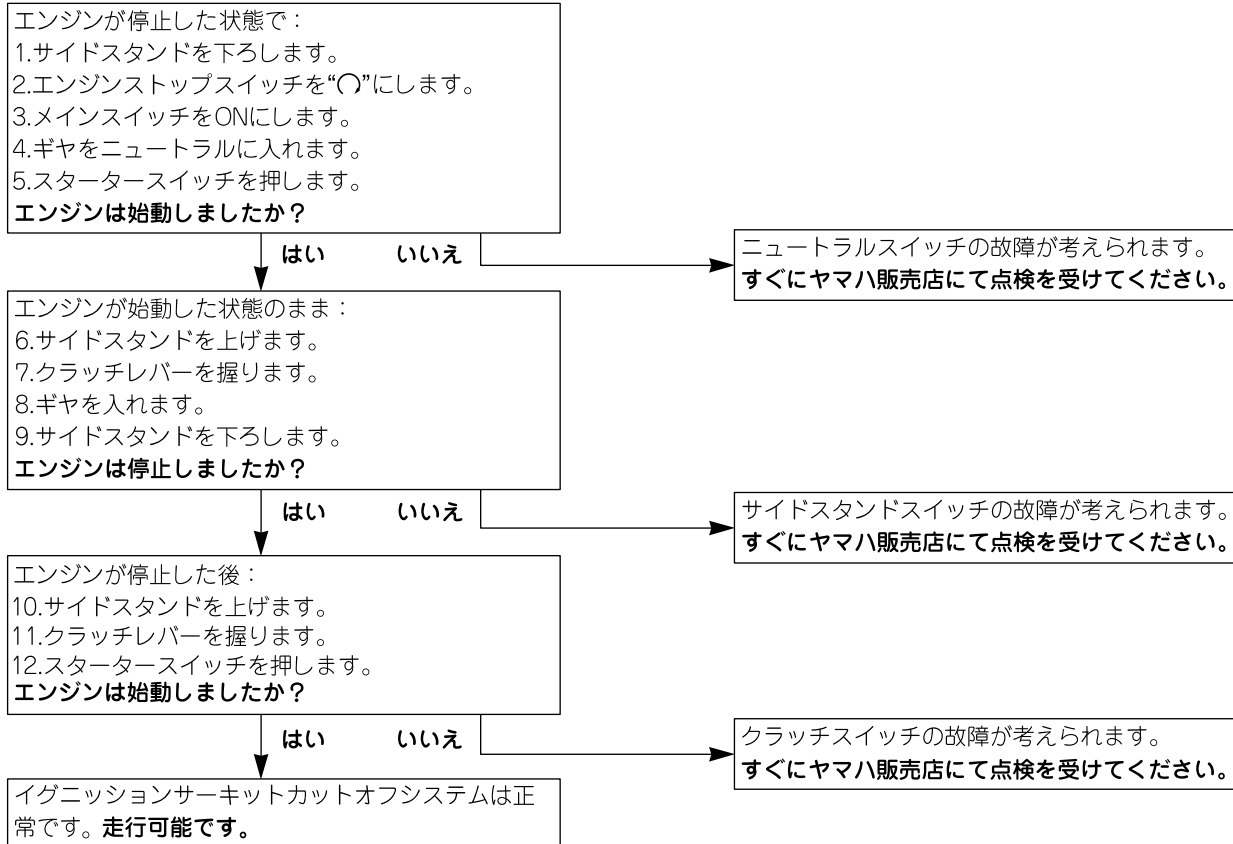
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドが上げてあるが、クラッチレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、クラッチレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドを下げるとエンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11541

警告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。



日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠ 警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適切であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適切であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	● 冷却水の量が適切であること。(※) ● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11733

⚠ 警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JAU47152

JAU3372A

JWA11562

JCA15992

要 点

- この車は、以下の機構を装備しています。
- メインスイッチがONのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。このとき、メーターにエラーコード 30 を表示しますが、故障ではありません。また、この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦 OFF にして、再度 ON にするリセット操作をしてください。このリセット操作を行うと、エラーコード 30 も表示されなくなります。
 - 車両が停止した状態で20分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。このとき、メーターにエラーコード 70 を表示しますが、故障ではありません。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

エンジン始動

⚠ 警告

- エンジンを始動するときには、3-17 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。
- サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。

1. メインスイッチを ON にし、エンジンストップスイッチが “○” にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要 点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スタータースイッチを押して、エンジンを始動します。

要 点

スタータースイッチで5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスターター

スイッチを押してください。

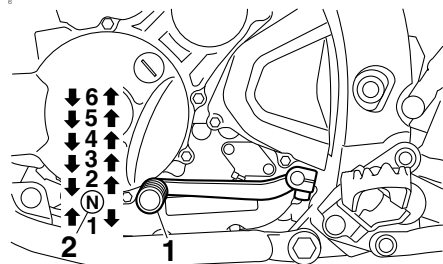
注 意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

運転操作

ギヤチェンジのしかた

JAU27514



1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車はリターン式の6段変速です。

ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

JCA12032

注意

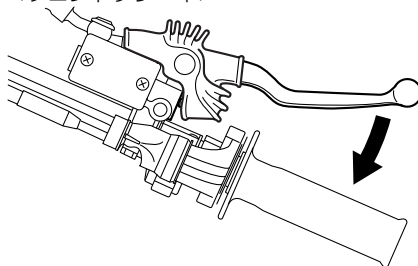
- シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。
- クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

ブレーキ

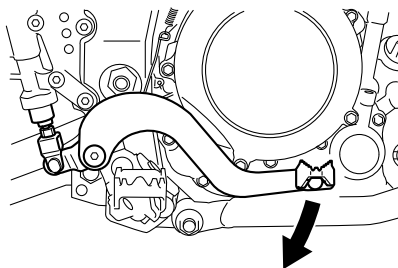
JAU33175

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリアブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リアブレーキ>



JWA11573

りや転倒の原因となります。

- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

警告

- 急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべ

ならし運転

JAU31471

ならし運転のしかた

JAU27622

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

駐車

JAU17214

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

点検整備

点検整備の実施

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JAU29839

JWA12055

⚠ 警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせて範囲内で点検・整備を行ってください。

難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - ・ 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
 - ・ エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
 - ・ 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。
 - ・ 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
 - ・ 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JWA15461

⚠ 警告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリ

パー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が十分に冷えてから行ってください。

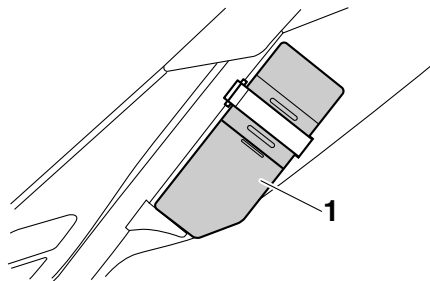
要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

サービスツール

サービスツールはツールボックスに格納してあります。

JAU44311

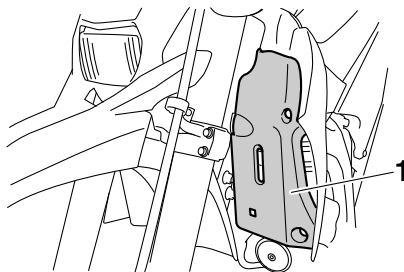


1. ツールボックス

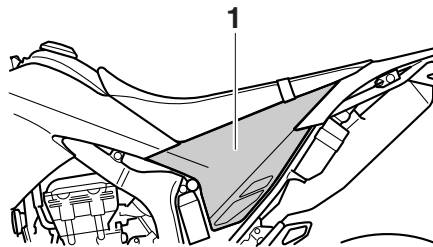
カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。

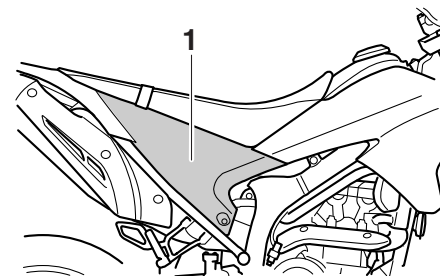
JAU18752



1. カバー A



1. カバー B



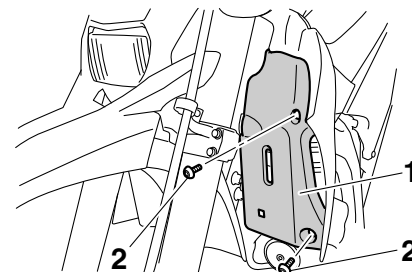
1. カバー C

JAU44371

カバー A

カバーの取り外しかた

1. ボルトを外します。

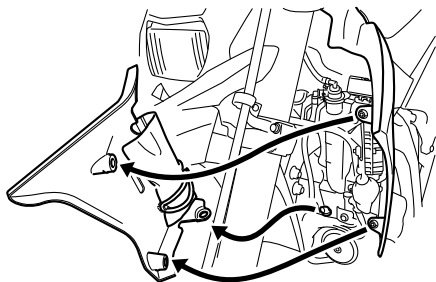


1. カバー A

2. ボルト

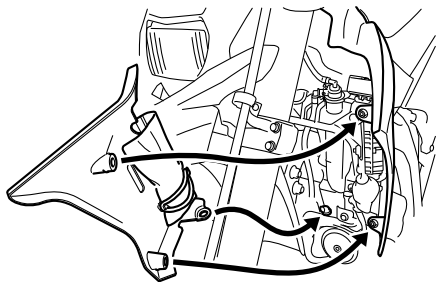
2. カバーの下部を持ち上げるようにしながら

ら、カバーを前方に引き出します。



カバーの取り付けかた

元の位置にカバーを取り付け、ボルトで締め付けます。

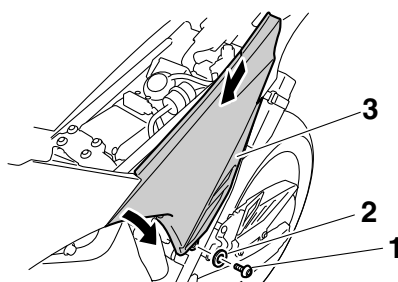


カバー B

カバーの取り外しかた

1. シートを取り外します。(3-12 ページ 参照)
2. ボルトとワッシャーを外し、図のように

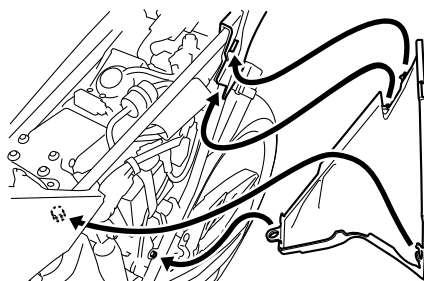
カバーを取り外します。



1. ボルト
2. ワッシャー
3. カバー B

カバーの取り付けかた

1. 元の位置にカバーとワッシャーを取り付け、ボルトで締め付けます。

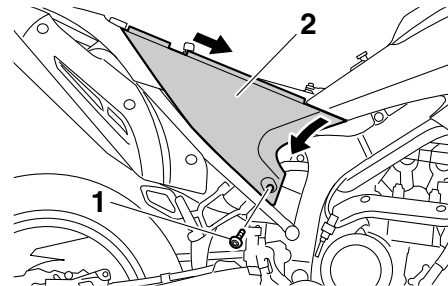


2. シートを取り付けます。

カバー C

カバーの取り外しかた

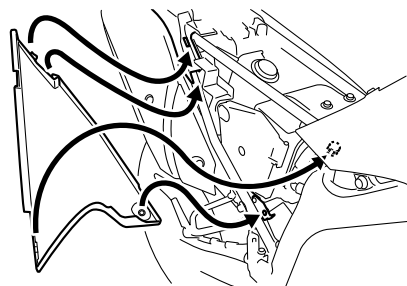
1. シートを取り外します。(3-12 ページ 参照)
2. ボルトを外し、図のようにカバーを取り外します。



1. ボルト
2. カバー C

カバーの取り付けかた

1. 元の位置にカバーを取り付け、ボルトで締め付けます。



2. シートを取り付けます。

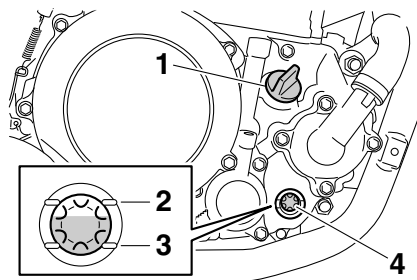
エンジンオイル エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンが十分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、2～3分後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。



1. オイル注入口
2. フルレベル
3. ロアレベル
4. エンジンオイル点検窓

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。(推奨エンジ

JAU30375

ンオイルについては、7-3 ページ参照)

JAU47214

エンジンオイルの交換時期

初回：

1 か月点検時または 1000 km 時

2 回目以降：

6000 km 走行ごと、または 1 年ごと

エンジンオイル量：

オイル交換時：

1.30 L

オイルフィルター取り外し時：

1.40 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

点検整備

オイルフィルターエレメントの交換時期

初回：

1 か月点検時または 1000 km 時

2 回目以降：

18000 km 走行ごと

JWA11861

警告

- 走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12102

注意

- 化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルやマルーブ FX をこの車に使用しないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

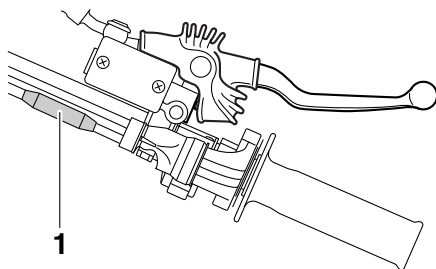
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU44194

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離れたときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱい切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。



1. ゴムカバー

JWA15531

警告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

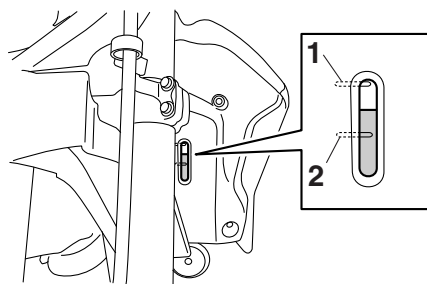
冷却水

冷却水量の点検

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直に行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



1. フルレベル
2. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU20071

JAU30723

水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。



JWA11882

警告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- 目に入ったとき
水で十分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類についたとき
すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- 飲んだとき
すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12111

注意

補充する水は水道水を使用し、井戸水や塩分

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道

JAU30804

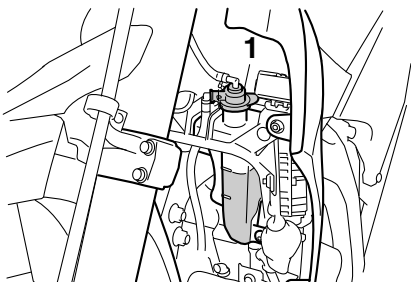
点検整備

の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU30843

冷却水の補充

1. カバー A を取り外します。(6-2 ページ参照)
2. リカバリータンクキャップを開け、冷却水をフルレベルまで補充します。



1. リカバリータンクキャップ
3. カバー A を取り付けます。

JCA12121

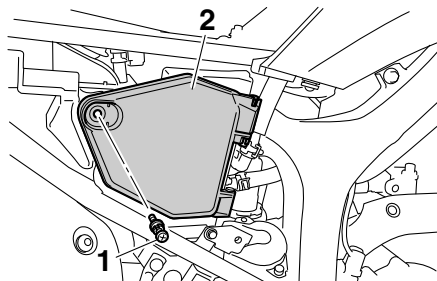
注意

- フルレベル以上は入れないでください。
- 冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

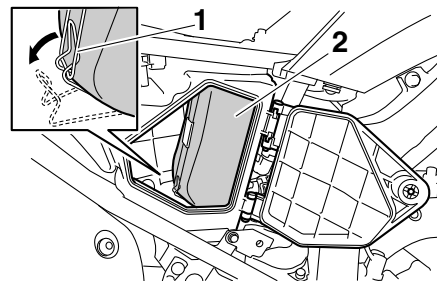
JAU44324

エアクリーナーエレメントの清掃 エアクリーナーエレメントの清掃

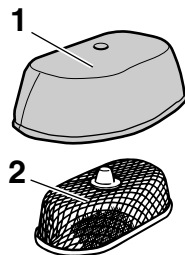
1. カバー C を外します。(6-2 ページ参照)
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを開きます。



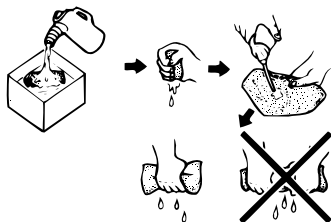
1. スクリュー
2. エアクリーナーケースカバー
3. クリップを外し、エアクリーナーケースからエアクリーナーエレメントを取り外します。



1. クリップ
2. エアクリーナーエレメント
4. エアクリーナーエレメントフレームからエアクリーナーエレメントを外し、きれいな灯油で洗浄して軽くしぼります。



1. エアクリーナーエレメント
2. エアクリーナーエレメントフレーム



JWA12251

警告

ガソリンや引火性の高い洗浄剤は引火のおそれがありますので、使用しないでください。

JCA10512

注意

エアクリーナーエレメントが破損しないよう、力を入れず、曲げたり折ったりしないでください。

5. エアクリーナーエレメントに損傷がないか点検します。損傷している場合は交換します。
6. ヤマラーブフィルターオイルをエアクリーナーエレメントの表面全体に塗布してから、布切れなどで包み、しぼります。
7. エアクリーナーエレメントをエアクリー

ナーエレメントフレームに取り付け、エアクリーナーケースに戻し、クリップで取り付けます。

JCA13062

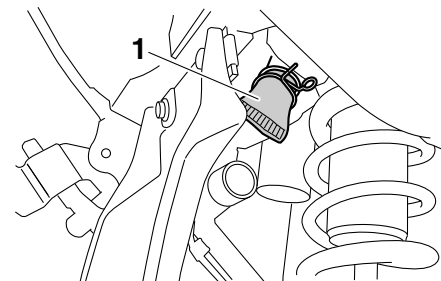
注意

- 破れなどのあるものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。
- 洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。
- 著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、清掃を行ってください。

8. エアクリーナーケースカバーを閉じ、スクリューを締め付けます。
9. カバーを取り付けます。

ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホースの清掃

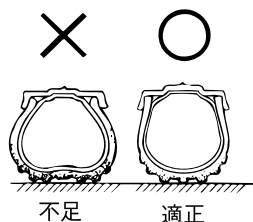
1. ブリーザードレンホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。



1. ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホース
2. 汚れや水があった場合は、ブリーザードレンホースを取り外して清掃し、元に戻します。

タイヤ 空気圧

JAU70860



タイヤ空気圧（冷間時）：

1 名乗車：

前輪：

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

後輪：

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

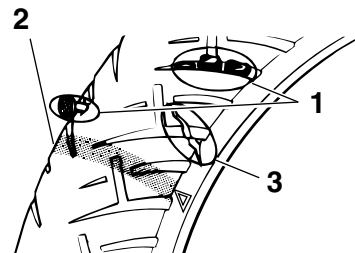
2 名乗車：

前輪：

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

後輪：

225 kPa (2.25 kgf/cm²)



1. 異物（釘、石など）

2. ウェアインジケター（摩耗限度表示）

3. 亀裂、損傷

要 点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28582

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さっていないかを点検します。

要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きくくぼみや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケターで点検します。ウェアインジケターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要 点

- ウェアインジケータはタイヤの溝が 0.8mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

警告

- タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。
- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・

整備を受けてください。

タイヤサイズ：

前輪：

110/70R17M/C 54H

後輪：

140/70R17M/C 66H

指定タイヤ：

前輪：

BRIDGESTONE/BT090F
RADIAL G

後輪：

BRIDGESTONE/BT090R
RADIAL G

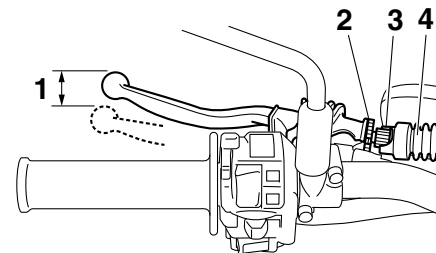
クラッチ

クラッチレバーの遊び

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び

10.0–15.0 mm



1. 遊び
2. ロックナット
3. アジャスター
4. ゴムカバー

点検の結果調整が必要な場合は、カバーをずらし、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。

JWA11841

JAU44332

JCA12071

⚠ 警告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12091

注意

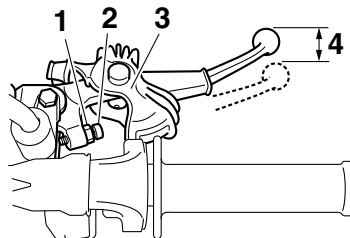
- 調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。
- 1 か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。ケーブルの寿命が伸びます。

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

<フロントブレーキ>

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。



1. ロックナット
2. アジャスター
3. カバー
4. 遊び

ブレーキレバーの遊び

5.0–8.0 mm

点検の結果調整が必要な場合は、カバーをずらし、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。

注意

調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。

JWA11851

⚠ 警告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

<リヤブレーキ>

ブレーキペダルは無調整式です。ブレーキペダルを手で押し、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

⚠ 警告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

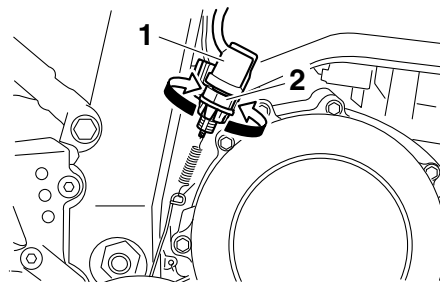
JAU22274

警告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

ブレーキランプスイッチ

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。
リヤブレーキランプスイッチの調整は、スイッチを指で押さえ、アジャスターを回して行います。



1. リヤブレーキランプスイッチ
2. アジャスター

JCA12081

注意

リヤブレーキランプスイッチを調整するときは、スイッチ本体を回さないでください。スイッチ本体を回すと、リード線を傷付けます。

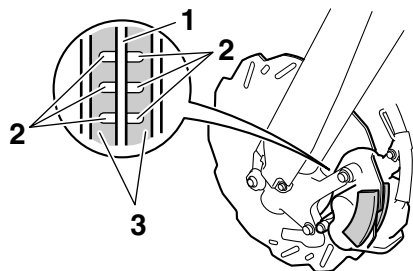
フロントブレーキをかけたときもブレーキランプが点灯するか点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU29601

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの摩耗の状態を点検します。
摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で
交換してください。

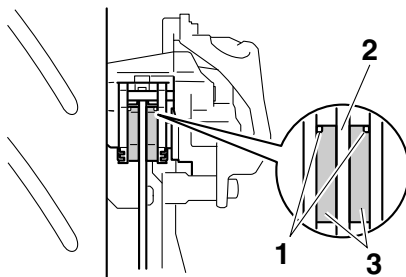
<フロントブレーキ>



1. ブレーキディスク
2. インジケーター溝
3. ブレーキパッド

ブレーキパッドのインジケーター溝がなく
なったら交換してください。

<リヤブレーキ>

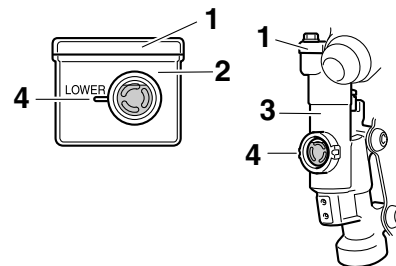


1. インジケーター
2. ブレーキディスク
3. ブレーキパッド

ブレーキパッドのインジケーターとブレー
キディスクのすき間がなくなったら交換し
てください。

JAU29981

ブレーキ液量の点検



1. ブレーキリザーバタンクキャップ
2. フロントブレーキマスターシリンダー
3. リヤブレーキマスターシリンダー
4. ロアレベル

ブレーキリザーバタンクキャップ上面を
水平にして、リザーバタンク内の液量がロ
アレベル以上にあるかを点検します。

JWA12151

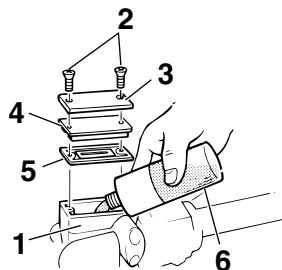


ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ
系統の液漏れが考えられます。販売店で点
検・整備を受けてください。

ブレーキ液の補給

<フロントブレーキ>

1. マスターシリンダーまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップ、ダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ロアレベル以上になるようにブレーキ液を補給します。

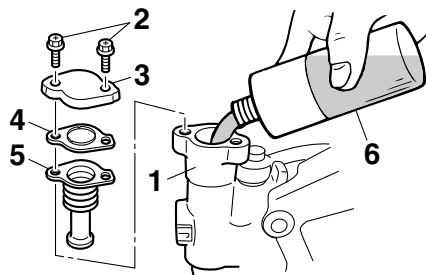


1. マスターシリンダー
 2. スクリュー
 3. キャップ
 4. ダイヤフラムブッシュ
 5. ダイヤフラム
 6. ブレーキ液
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意してキャップを取り付け、スクリューを締め

JAU34984

付けます。
<リアブレーキ>

1. マスターシリンダーまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. ボルトを外し、キャップ、ダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ロアレベル以上になるようにブレーキ液を補給します。



1. マスターシリンダー
 2. ボルト
 3. キャップ
 4. ダイヤフラムブッシュ
 5. ダイヤフラム
 6. ブレーキ液
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意してキャップを取り付け、ボルトを締め付けます。

指定ブレーキ液：

ヤマルーブ ブレーキフルード BF-4
(DOT-4)

JWA12072

警告

- ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。
- 液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。

6

JCA12331

注意

- ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。
- ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム

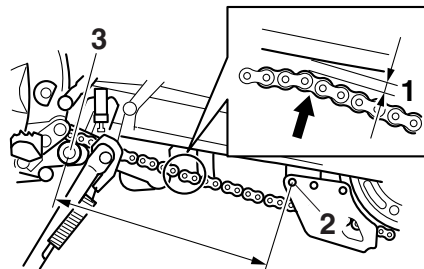
類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

ドライブチェーン

ドライブチェーンの点検

JAU22762

JAU47225



1. ドライブチェーンのたわみ量
2. チェーンサポート取り付けボルト
3. チェーンテンショナー

ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立て、チェーンテンショナーとチェーンサポート取り付けボルト（前端部）間のチェーン中央部に、約 50N (5.0 kgf) の荷重をかけます。このとき、リアアーム端面からチェーン上面の距離が、規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要 点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

ドライブチェーンたわみ量：

8.0-13.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

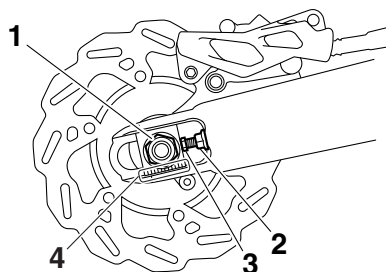
また、車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU22936

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロックナットをゆるめます。
2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。



1. セルフロックングナット
2. ロックナット
3. アジャスター
4. 刻み目盛り

要 点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロックングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

セルフロックングナット：
125 Nm (12.5 m・kgf)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

ロックナット：
16 Nm (1.6 m・kgf)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブスーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

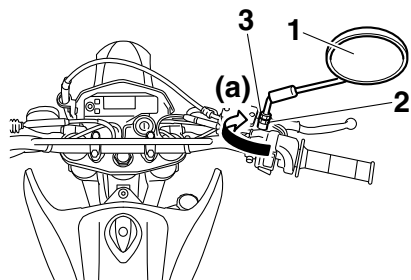
この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。

- スチーム洗浄はしないでください。
- シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。

バックミラー

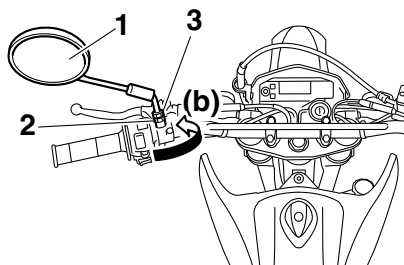
バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラー取り付けアダプターのボルト部は左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けアダプターを時計回り (a) 方向に回します。



1. 右バックミラー
2. 右バックミラー取り付けアダプター
3. 右バックミラー取り付けナット

- 左バックミラー取り付けアダプターのボルト部は右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けアダプターを反時計回り (b) 方向に回します。



1. 左バックミラー
2. 左バックミラー取り付けアダプター
3. 左バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

要 点

- 右バックミラー取り付けナットは、右ネジです。
- 左バックミラー取り付けナットは、左ネジです。

車体各部の給油脂状態の点検

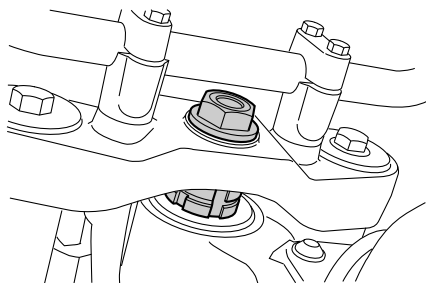
車体各部の給油脂状態が充分であることを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングシステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28762

バッテリー バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。バッテリー液の補充、点検は不要です。バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠ 警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣

服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。

- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12142

注意

- このバッテリーは密閉式の 12V です。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間で使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU61910

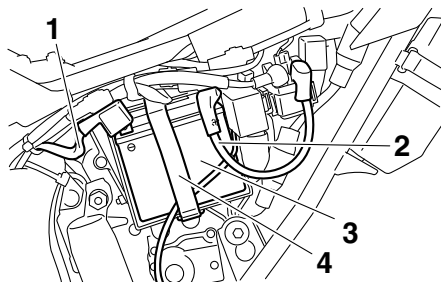
バッテリーの取り外し

1. メインスイッチを OFF にします。
2. カバー B を取り外します。（カバーの取

点検整備

り外しは 6-2 ページ参照)

3. バッテリーバンドを外します。
4. - (マイナス) 側リード線を外し、次に + (プラス) 側リード線を外します。
5. バッテリーを取り外します。



1. -リード線
2. +リード線
3. バッテリー
4. バッテリーバンド

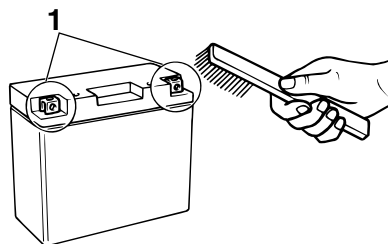
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

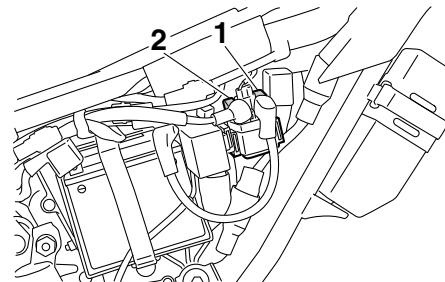
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



1. ターミナル

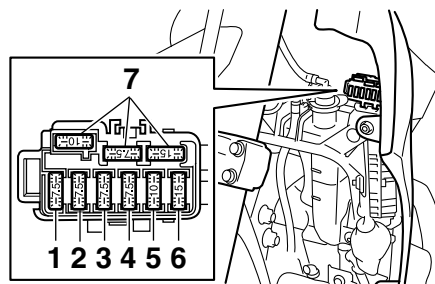
ヒューズ交換

メインヒューズはカバーBを外したところにあります。(6-2 ページ参照)



1. メインヒューズ
2. スペアメインヒューズ

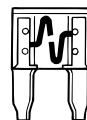
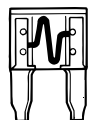
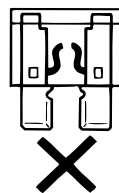
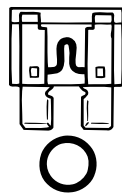
系統別ヒューズボックスはカバーAを外したところにあります。(6-2 ページ参照)



1. フューエルインジェクションヒューズ
2. ラジエーターファンモーターヒューズ
3. バックアップヒューズ
4. イグニッションヒューズ
5. シグナルヒューズ
6. ヘッドライトヒューズ
7. スペアヒューズ

ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



メイン：
30.0 A
イグニッション：
7.5 A
シグナル：
10.0 A
ヘッドライト：
15.0 A
ラジエーターファンモーター：
7.5 A
バックアップ：
7.5 A
フューエルインジェクション：
7.5 A

JCA12862

注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のもを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。

- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

3. メインスイッチを ON にし、装置が正しく作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU29444

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを開始し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-19 ページを参照）し、異常がないときは電球を交換してください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（8-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

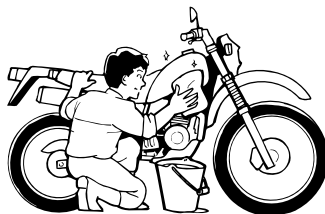
注意

- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、十分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなることが

あります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。

- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12214

注意

- エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

お車の手入れ

- ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要 点

- 書類入れ付近に水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

アルミフレームの取り扱い 日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしないと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JAU44341

JWA14801

警告

変形したり、損傷したアルミフレームは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA16021

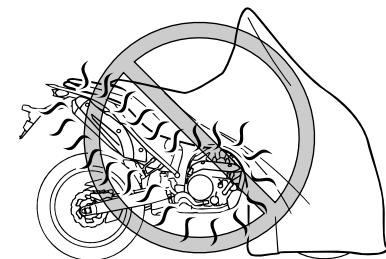
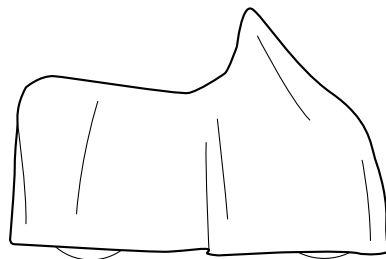
注意

アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。



JAU35912

JCA13111

注意

長期間お乗りにならないときは、以下のこと

を守ってください。

- 保管する前にワックスがけをしてください。(マット塗装部分を除く) サビを防ぐ効果があります。
- バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。
- 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

長期間安定した粘度特性を保ち、高い潤滑性能を発揮させるため、優れたせん断安定性能を実現。また、高温となるエンジン内でのオイルの酸化をハイレベルに抑制。高回転、高負荷下でも高い油膜保持性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスポーツ

高せん断安定性と同時に、高い低蒸発性を実現。オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなど過酷な条件下でも優れた性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスタンダードプラス

清浄性、高温酸化安定性を実現。温度に左右されない粘度特性を持ち、過酷な条件にも適しています。カジュアルなタウン走行から、タフな業務使用まで対応するオイルです。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下のURLを入力してホームページを参照するか、「ヤマハ バイク オイル」というキーワードで検索してください。

<http://www.ysgear.co.jp/mc/>

ヤマハ バイク オイル

検索



製品仕様

寸法:

全長:
2125 mm
全幅:
810 mm
全高:
1190 mm
シート高:
870 mm
軸間距離:
1435 mm
最低地上高:
260 mm

重量:

車両重量:
134 kg
分布荷重 (前):
64 kg
分布荷重 (後):
70 kg
車両総重量:
244 kg
分布荷重 (前):
92 kg
分布荷重 (後):
152 kg

乗車定員:

2 名

性能:

定地燃費 (国土交通省届出値):
34.0 km/L/60 km/h
最小回転半径:
2.3 m
最高出力:
23 kW@10000 r/min
(31 PS@10000 r/min)
最大トルク:
24 Nm@8000 r/min
(2.4 kgf-m@8000 r/min)

エンジン:

行程:
4 ストローク
冷却方式:
水冷
動弁機構:
DOHC
気筒数:
単気筒
総排気量:
249 cm³
内径 × 行程:
77.0 × 53.6 mm

圧縮比:

11.8 : 1

エアフィルターエレメント:

湿式エレメント

クラッチ形式:

湿式, 多板

変速機形式:

常時噛合式 6 速

始動方式:

セルフ式

車体:

フレーム形式:

セミダブルクレードル

キャスター:

26.0 度

トレール:

81 mm

ステアリングシステム:

ハンドル切れ角 (左):

44.0 度

ハンドル切れ角 (右):

44.0 度

燃料:

種類:

無鉛プレミアムガソリン

フューエルタンク容量:

7.6 L

予備容量： 2.1 L	メーカー / 銘柄： BRIDGESTONE / BT090F RADIAL G	2 次減速比： 3.230 (42/13)
フロントブレーキ： ブレーキ形式： 油圧式シングルディスクブレーキ	リヤタイヤ： 種類： チューブ有り	エレクトリカル： 電圧： 12V 点火方式： TCI
リヤブレーキ： ブレーキ形式： 油圧式シングルディスクブレーキ	サイズ： 140/70R17M/C 66H	ヘッドライト： ヘッドライト球： ハロゲンバルブ
フロントサスペンション： 種類（前）： テレスコピック スプリング： コイルスプリング ショックアブソーバー： オイルダンパー	メーカー / 銘柄： BRIDGESTONE / BT090R RADIAL G	バルブワット数 x 個数： ヘッドライト： H4, 60.0 W/55.0 W x 1 ブレーキ / テールランプ： LED
リヤサスペンション： 種類（後）： スイングアーム（リンク式） スプリング： コイルスプリング ショックアブソーバー： ガスオイルダンパー	動力伝達機構： 1 次減速比： 3.120 (78/25) 1 速： 2.642 (37/14) 2 速： 1.812 (29/16) 3 速： 1.318 (29/22) 4 速： 1.040 (26/25) 5 速： 0.888 (24/27) 6 速： 0.785 (22/28)	方向指示灯（前）： 10.0 W x 2 方向指示灯（後）： 10.0 W x 2 番号灯： 5.0 W x 1 メーター灯： EL（エレクトロルミネセント）
フロントタイヤ： 種類： チューブ有り サイズ： 110/70R17M/C 54H		パイロットランプワット数 x 個数： ニュートラルランプ： LED

製品仕様

方向指示器表示灯：
LED
ヘッドライト上向き表示灯：
LED
燃料残量警告灯：
LED
冷却水温警告灯：
LED
エンジン警告灯：
LED
エンジンオイル：
推奨オイル：
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス
エンジンオイル量：
オイル交換時：
1.30 L
オイルフィルター取り外し時：
1.40 L
冷却水容量：
リザーブタンク（FULL レベルまで）：
0.25 L
ラジエーターと全ての経路：
0.65 L
ドライブチェーン：
たわみ量：
8.0–13.0 mm

ブレーキレバーとブレーキペダル：
フロントブレーキレバー遊び：
5.0–8.0 mm
ケーブルとレバーの遊び：
スロットルグリップ遊び：
3.0–5.0 mm
クラッチレバー遊び：
10.0–15.0 mm
フロントディスクブレーキ：
パッド厚さ：
4.0 mm
使用限度：
1.0 mm
指定ブレーキフルード：
BF-4 (DOT-4)
リアディスクブレーキ：
パッド厚さ：
6.4 mm
使用限度：
1.0 mm
指定ブレーキフルード：
BF-4 (DOT-4)
ホイールトラベル：
ホイールトラベル（前）：
270 mm
ホイールトラベル（後）：
265 mm

タイヤ空気圧（冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
200 kPa (2.00 kgf/cm²)
後輪：
200 kPa (2.00 kgf/cm²)
2 名乗車：
前輪：
200 kPa (2.00 kgf/cm²)
後輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
バッテリー：
バッテリー型式：
YTZ7S
バッテリー容量：
12 V, 6.0 Ah (10 HR)
スパークプラグ：
メーカー / 型式：
NGK/CR9EK
プラグギャップ：
0.6–0.7 mm
ヒューズ容量：
メイン：
30.0 A
ヘッドライト：
15.0 A

シグナル:

10.0 A

イグニッション:

7.5 A

ラジエーターファンモーター:

7.5 A

フューエルインジェクション:

7.5 A

バックアップ:

7.5 A

二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1

1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用を

JAU36642

メーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

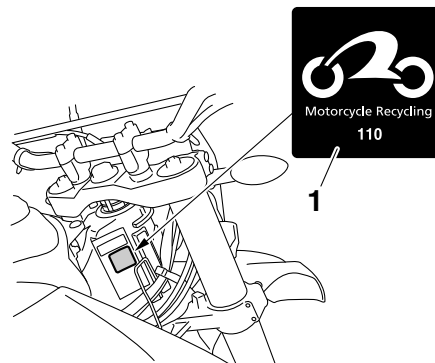
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株） 二輪車リサイクルシステム

<http://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>

公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

JAU28392

サービスマニュアル(別売)の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

WR250X サービスマニュアル 部品番号：
QQS-CLT-000-3D7

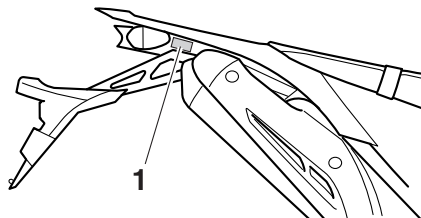
JAU50492

車両情報 モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、車体右後方のシートレールに貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は

WR250X

モデルラベル

製品仕様を示しています。

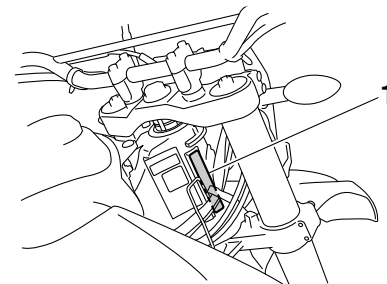


カラーリングを示しています。



JAU50501

車台番号



1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

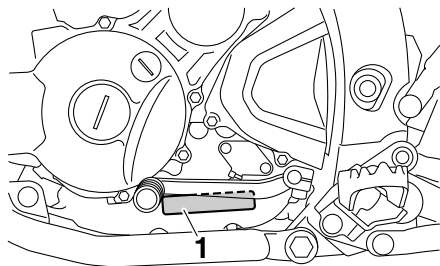
ユーザー情報

原動機番号

JAU50511

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。



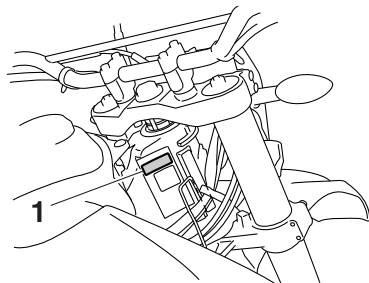
1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

型式認定番号

JAU50521



1. 型式認定番号

あ	あなた自身と同乗者のために..... 1-1	さ	サービスツール..... 6-2	日常点検の実施..... 4-1
	アフターケア用品について..... 7-3		サービスマニュアル（別売）の 紹介..... 9-2	二輪車を廃棄する場合は？..... 9-1
	アルミフレームの取り扱い..... 7-2	し	サイドスタンド..... 3-17	ね
	アンダーブラケットの 取り付け状態の点検 （ステアリングシステム）..... 6-18			燃料..... 3-11
い	イグニッションサーキットカット オフシステム..... 3-17			は
う	運行において異常が認められた 箇所の点検..... 6-21			ハザードスイッチ..... 3-10
え	エアクリーナーエレメントの清掃..... 6-7			バックミラー..... 6-17
	エンジンオイル..... 6-4			バッテリー..... 6-18
	エンジン始動..... 5-1			ハンドルスイッチ..... 3-9
	エンジンストップスイッチ..... 3-9			ひ
	エンジンのかかり具合、 異音の点検..... 6-5			ヒューズ交換..... 6-19
か	型式認定番号..... 9-3	す	スタータースイッチ..... 3-10	ふ
	カバーの取り外し、取り付け..... 6-2	せ		フューエルタンクキャップ..... 3-10
	環境・住民の方との調和のために..... 1-5	た	洗車..... 7-1	ブレーキ..... 5-2
き	キーの取り扱い..... 3-1			ブレーキ液の補給..... 6-14
	ギヤチェンジのしかた..... 5-2	ち	タイヤ..... 6-9	ブレーキ液量の点検..... 6-13
く	クラッチ..... 6-10	て	駐車..... 5-3	ブレーキパッドの点検..... 6-13
け	警告灯と表示灯..... 3-3			ブレーキランプスイッチ..... 6-12
	原動機番号..... 9-3	と	低速、加速の状態の点検..... 6-5	ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、および ブレーキのきき具合の点検..... 6-11
			点検整備の実施..... 6-1	フロントフォークのエア抜き..... 3-15
			灯火装置および方向指示灯の 点検..... 6-21	フロントフォークの調整..... 3-13
			ドライブチェーン..... 6-15	へ
			ドライブチェーンの給油..... 6-16	ヘッドライト上下切り替え スイッチ..... 3-9
		な	ならし運転..... 5-3	ヘルメットホルダー..... 3-12
		に	日常点検箇所／点検内容..... 4-1	ほ
				ホーンスイッチ..... 3-9
				方向指示器スイッチ..... 3-9
				保管のしかた..... 7-2
				歩行者と他の車のために..... 1-4

索引

ま	マルチファンクション ディスプレイ.....	3-4
め	メインスイッチ.....	3-1
も	モデルラベル	9-2
り	リヤクッションの調整.....	3-15
れ	冷却水.....	6-6

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。



QQS-CLT-117-3D7

再生紙を使用しています

PRINTED IN JAPAN
2015.07-0.1×1 
(J)